

「遺伝性がん 当事者からの手紙」

写真 パネル展

どなたでもお気軽にお立ち寄りください

展 示 期 間

2026年

8月3日(月) ~ 8月28日(金)



当時、上の娘が描いた
泣きながら笑っているところの私。
これを見て、泣いちゃダメだと思った。

私が乳がん分かったのは31歳の時だった。その時娘たちは5歳と3歳。
がん=死と思っていた私は、毎日泣いた…。こんな小さい子を置いて死ぬんだ私…。

闘病中、私のそばではいつも娘たちが笑っていた。
全摘した胸を見せた時も、抗がん剤で髪の毛が抜けてツルツルになった頭を見せた時も。
そして私もいつしか、泣くよりも笑っている時間が増えていった。
あれから5年が経ち、今なんとか生きている。こんなに元気に！

今でも娘たちは、相変わらず私のそばで笑ってくれている。
この子たちにずっと助けられているな…と感謝する毎日。本当にありがとう！！

その後の検査で、HBOCだという事が分かった。
「だから私はがんになったんだ…」「娘たちにも受け継がせているかもしれない…」
「申し訳ない…どうしよう…」次から次に不安が押し寄せてきた。

娘たちには、検診に行く大切さ、自分の体は自分で守る！という事、
これから少しずつゆっくりと教えていこうと思う。
私のような思いは絶対にさせたくない。
でも…。一番は、私がちゃんと一生懸命生きている姿を見せる事かなあ〜

がんばろp(´△`)q

30代女性。夫と娘2人、義父母との6人暮らし。31才右乳がん発症。
リスク低減卵巣卵管切除術を決心し手術直前にキャンセルすること2回。現在も迷っている。



会 場 : 岐阜県総合医療センター 本館1階

〒500-8717 岐阜県岐阜市野一色4丁目6番1号 ☎058-246-1111

お問合せ: 岐阜県総合医療センター 遺伝子診療科

主 催: 地方独立行政法人岐阜県総合医療センター 遺伝子診療科

協 力: 一般社団法人日本遺伝カウンセリング学会/遺伝性腫瘍研究会/NPO法人クラヴィス アルクス